

## 関西国際大学“三つの方針”（2016年4月1日改定）

### 1. 卒業認定・学位授与の方針（DP）

関西国際大学（以下では「本学」という）は、学院の建学の精神「以愛為園」を基本理念とし、本学の各学位プログラムの課程を修め、126単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、学則第1条に定めるグローバルな視野に立った教養を基礎とする専門的知識・技術を修得し、国際社会において活躍できる人材を育成することを目的としています。

その実現のために、同第1条の2に定める下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としています。

#### (1) 自律的で意欲的な態度（自律性）

自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できます。

#### (2) 社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）

社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができます。

#### (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）

多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できます。

#### (4) 問題発見・解決力

状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。

#### (5) コミュニケーション能力

国内外を問わず、社会生活を営む上で、他人の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自分の思いや考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。

#### (6) 専門的知識・技能の活用力

自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際の場面で、その時・その場の状況に応じて、再構成し活用することができます。

### 2. 教育課程編成の方針（CP）

本学では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

#### 1) 教育内容

(1) 4年間を通じた学修の基礎となる共通教育においては、必修科目「人間学」を中心に「社会、文化、自然に対する現状と課題についての基本的視点・考え方の修得」を学ぶようにし、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けての学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行います。

(2) 語学教育においては英語教育において習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて進捗度を確認し、学生自身の学習進度にあったコミュニケーション型の英語力の育成をはかる。

(3) 専門教育においては、専門分野の体系的に基づき、必修科目と専攻や履修コースに基づく学年・学期別の科目配置を行います。

- (4)各学年・学期に演習科目を配置し、その担当教員が学生の学修・生活の助言を行うアドバイザーとなります。
- (5) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格のものには再試験を課し、その合格を求めます。
- (6) 専門教育科目を中心とする教育内容の統合と総合化のために、4年次の卒業研究を必修とします。

## 2) 教育方法

- (7) 社会の課題を自己のものとして捉え、考え、発信するための国外や地域における学外体験学習プログラム(リサーチ、グローバルスタディ、サービスマーケティング、インターンシップ)を原則として2種類以上履修することを求め、学位プログラムごとに詳細を定めます。
- (8) アクティブラーニングを取り入れた教育方法を少人数科目では必ず用い、多人数科目においても極力取り入れます。
- (9) 専門科目においては、アサインメントやレポート課題を課す時期と課題の整合性・連携性をはかり、形成的評価のための期中のフィードバックに努めます。

## 3) 評価

- (10) 本学では、学位授与の方針に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況を、「大学レベル」「学部・学科(学位プログラム)レベル」「学生個人レベル」の3つのレベルで把握し、評価します。

各レベルの評価の実施方法は以下(11)～(13)のとおりとします。

- (11) 大学レベルの評価では、①KUIS学修ベンチマークの学生チェックデータ、②学修行動調査の集計、③到達確認試験の結果、④卒業研究の成果把握、により行います。
- (12) 学科レベルの評価では、①KUIS学修ベンチマークの達成状況、②到達確認試験の達成度による専門基礎知識の獲得度、③卒業研究の評価、及び学科が定める適切な方法によって評価します。
- (13) 学生の教育評価では、学業成績については各々の学科ごとに定める学位プログラムの卒業要件を満たし、①各科目のシラバスに定める成績評価、②KUIS学修ベンチマークの達成、③学修成果の取りまとめとしての『卒業研究』に対するルーブリック評価、によって総合的に行います。

## 3. 入学者選抜の方針 (AP)

本学は、教育目標に定める人材を育成するために、本学での学修に対する目的や意欲、高等学校までの学習および経験を通じての基礎的な知識、身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を身につけて入学してくるよう、下記のことを求めます。

このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。

- (1)高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2)高等学校までの履修内容のうち、「国語総合(現代文)」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。
- (3)身近な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (4)学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。
- (5)入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるためのeラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。